

森林整備保全事業 I C T 活用工事（土工）試行積算要領

第1 適用範囲

本要領は、 I C Tによる土工（以下「土工（I C T）」という。）に適用する。

以下の I C T建設機械による施工の積算に当たっては、森林整備保全事業における施工パッケージ型積算方式の試行の実施について（平成28年3月31日付け27林整計第351号林野庁長官通知）別添1「森林整備保全事業施工パッケージ型積算方式の基準」（以下「施工パッケージ型積算基準」という。）により行うこととする。

- ・掘削（I C T）
- ・路体（築堤）盛土（I C T）
- ・路床盛土（I C T）
- ・法面整形工（I C T）

なお、土量が1,000m³未満の場合は、「森林整備保全事業 I C T活用工事（土工1,000m³未満）試行積算要領」（法面整形工については、「森林整備保全事業 I C T活用工事（法面工）試行積算要領」）によるものとし、出来形管理を行わない作業土工（床掘）については、「森林整備保全事業 I C T活用工事（作業土工（床掘））試行積算要領」によるものとする。

また、現場条件によって「第2 1機械経費」に示す I C T建設機械よりも小さい規格の I C T建設機械を用いる場合は、施工パッケージ型積算基準によらず、見積りを活用し積算することとする。

第2 機械経費

土工（I C T）の積算で使用する I C T建設機械の機械経費等は、以下のとおりとする。ただし、山地治山土工における I C T施工には適用せず、見積りを活用し積算することとする。

1 機械経費

I C T建設機械の機械経費に係る損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、賃料については、「森林整備保全事業設計積算要領等の細部取扱い」により算定するものとする。

①掘削（I C T）、法面整形工（I C T）

I C T建設機械	規格	機械経費	備考
バックホウ (クローラ型)	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)吊能力2.9t	賃料にて計上	I C T建設機械経費加算額は第2の2により計上

②路体（築堤）盛土（I C T）、路床盛土（I C T）

I C T建設機械	規格	機械経費	備考
ブルドーザ	湿地・I C T施工対応型・排出ガス対策型(2011年規制)・7t級	賃料にて計上	I C T建設機械経費加算額は第2の2により計上
	湿地・I C T施工対応型・排出ガス対策型(2011年規制)・16t級	賃料にて計上	

※第2の1機械経費のうち、賃料にて計上するICT施工対応型の機械経費には、地上の基準局・管理局以外の賃貸費用が含まれている。

2 ICT建設機械経費加算額

(1) 賃料加算額

ICT建設機械経費賃料加算額は、地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、1機械経費のうち賃料にて計上するICT建設機械に適用する。

なお、加算額は、以下のとおりとする。

ア 掘削（ICT）、法面整形工（ICT）

対象建設機械：バックホウ（ICT施工対応型）

賃料加算額：13,000円／日

イ 路体（築堤）盛土（ICT）、路床盛土（ICT）

対象建設機械：ブルドーザ（ICT施工対応型）

賃料加算額：13,000円／日

3 システム初期費

ICT建設機械による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、ICT建設機械精度確認等、ICT建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用など、貸出しに要する全ての費用として、以下の費用を共通仮設費の技術管理費に計上する。

ア 掘削（ICT）、法面整形工（ICT）

対象建設機械：バックホウ

費用：598,000 円／式

イ 路体（築堤）盛土（ICT）、路床盛土（ICT）

対象建設機械：ブルドーザ

費用：548,000 円／式

1 工事当たり使用機種毎に一式計上を原則とするが、受注者の責によらず、連続作業でICT建設機械による施工が出来ない場合等については、監督職員と協議のうえ複数計上できるものとする。

第3 3次元起工測量及び3次元設計データの作成にかかる経費

3次元起工測量及び3次元設計データの作成（修正含む。）経費を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。また、当該費用は間接費を含む額とし、現場管理費や一般管理費等の対象額に含めないこととする。そのほか、下記の費用に関しては、間接工事費に含まれることから別途計上の対象とならない。

・ 3次元起工測量

基準点等の設置（従来の起工測量に含まれるもの）

・ 3次元設計データ作成

設計図書の照査に関する作業

その他協議図面作成に関する作業

完成図書作成に関する作業

費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積りの提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。

また、前工事及び設計段階での3次元設計データを活用した場合、発注者が貸与する3次元設計データを活用した場合は、費用計上しないものとする。

なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。

第4 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等にかかる経費

1 出来形管理の計測範囲において、1m間隔以下（1点/m²以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法（面管理）を実施し、3次元データ納品を行った場合における経費の計上方法については、受注者より提出された見積りにより費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設费率、現場管理费率に以下の補正係数を乗じるものとする。

なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積書を提出するものとする。

また、受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。

- ・共通仮設费率補正係数：1.2
- ・現場管理费率補正係数：1.1

上記経費の対象となる出来形管理は、以下の①から⑤とし、それ以外の森林整備保全事業ICT活用工事（土工）試行実施要領に示された出来形管理の経費は、補正係数を乗じない共通仮設费率及び現場管理费率に含まれる。

- ①空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理
- ②地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- ③無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- ④地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- ⑤上記①～④に類似する、その他の3次元計測技術を用いた出来形管理

2 費用計上に当たっての留意事項

- (1) 「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、当初は計上しない。
- (2) 受注者からの見積り又は補正係数で乗じた額での費用計上方法は以下のとおりである。
 - ①補正係数を乗じて算出される金額を計上する場合
 - ・補正係数を乗じて算出される金額＜受注者からの見積りによる金額

②受注者からの見積りによる金額を計上する場合

- ・補正係数を乗じて算出される金額>受注者からの見積りによる金額

第5 発注者指定型における積算方法

掘削（ICT）の積算は、ICT建設機械による施工歩掛（以下「ICT施工」という。）と通常建設機械による施工歩掛（以下「通常施工」という。）を用いるものとする。

1 施工数量50,000m³未満における掘削（ICT）の積算

当初積算時の施工数量は、官積算工程において必要な施工日数から設定された計上割合により計上するものとする。

変更積算時は、ICT施工現場での実際の施工数量に応じて変更を行うものとし、ICT建設機械の稼働率を用いて算出するものとする。

なお、変更に伴い施工数量が50,000m³以上となるものについても施工数量に応じて変更を行うものとする。

また、ICT建設機械を活用し、ICT建設機械の施工土量が把握できる場合は、この値を活用し変更するものとする。

（注）当初及び変更の積算については、別添「掘削（ICT）における積算」を参照するものとする。

（1）当初積算

ア ICT土工にかかる施工日数の算出

施工数量(m³)を作業日当たり標準作業量(m³/日)で除した値を施工日数とする。

なお、施工日数は、小数点第1位を切り上げた整数とする。

イ 計上割合の設定

アで求めた施工日数から（表-1）により、計上割合を設定する。

（表-1） 施工数量50,000m³未満における掘削（ICT）の計上割合

施工日数	割合
20日未満	100%
20日以上60日未満	50%
60日以上	25%

ウ 施工数量の算出

ICT土工の全施工数量に計上割合を乗じた値をICT施工（掘削（ICT）〔ICT建機使用割合100%〕）の施工数量とし、残りの値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。

なお、計上割合を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は「森林整備保全事業設計積算要領」〈参考基準等〉第1数量計算及び単位等によるものとする。

（2）変更積算

現場でのICT施工の実績により、変更するものとする。

ア ICT土工にかかるICT建設機械稼働率の算出

ICT建設機械による施工日数（使用台数）をICT施工に要した全施工日数（ICT建設機械と通常建設機械の延べ使用台数）で除した値をICT建設機械稼働率とする。

なお、ICT建設機械稼働率は、小数点第3位を切り捨て小数点第2位止とする。

イ 変更施工数量の算出

ICT土工の全施工数量にICT建設機械稼働率を乗じた値をICT施工（掘削（ICT）〔ICT建機使用割合100%〕）の施工数量とし、全施工数量からICT施工（掘削（ICT）〔ICT建機使用割合100%〕）を引いた値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。

ICT建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるものとする。

なお、ICT施工は実施しているが、ICT建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、全施工数量の25%をICT施工（掘削（ICT）〔ICT建機使用割合100%〕）による施工数量として変更設計書に計上するものとする。

2 施工数量50,000m³以上における掘削（ICT）の積算

当初積算時に計上する施工数量については、全施工数量の25%をICT施工（掘削（ICT）〔ICT建機使用割合100%〕）による施工数量として設計書に計上するものとする。

なお、変更に伴い施工数量が50,000m³未満となるものについても、施工数量に応じて変更するものとする。

また、ICT建設機械を活用し、ICT建設機械の施工土量が把握できる場合は、この値を活用し変更するものとする。

（注）当初及び変更の積算については、別添「掘削（ICT）における積算」を参照するものとする。

（1）当初積算

ア 施工数量の算出

全施工数量に25%を乗じた値をICT施工（掘削（ICT）〔ICT建機使用割合100%〕）の施工数量とし、残りの値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。

なお、計上割合を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は「森林整備保全事業設計積算要領」〈参考基準等〉第1数量計算及び単位等によるものとする。

（2）変更積算

現場でのICT施工の実績により、変更するものとする。

ア ICT土工にかかるICT建設機械稼働率の算出

ICT建設機械による施工日数（使用台数）をICT施工に要した全施工日数（ICT建設機械と通常建設機械の延べ使用台数）で除した値をICT建設機械稼働率とする。

なお、ICT建設機械稼働率は、小数点第3位を切り捨て小数点第2位止とする。

イ 変更施工数量の算出

ICT土工の全施工数量にICT建設機械稼働率を乗じた値をICT施工（掘削（ICT）〔ICT建機使用割合100%〕）の施工数量とし、全施工数量からICT施工（掘削（ICT）〔ICT建機使用割合100%〕）を引いた値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。

T) [ICT 建機使用割合 100%]) の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工（掘削（ICT）[ICT 建機使用割合 100%]）を引いた値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。

ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるものとする。

なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、全施工数量の 25% を ICT 施工（掘削（ICT）[ICT 建機使用割合 100%]）による施工数量として変更設計書に計上するものとする。

3 特記仕様書への条件明示【参考】

特記仕様書に追記する記載例は、以下のとおりとする。

なお、記載例に無いものについては、別途作成するものとする。

第〇〇条 ICT 活用工事の費用について

○. 掘削工の ICT 建設機械による施工は、当面の間、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績を用いて算出するものとする。

※ ICT 建設機械の施工土量が把握できる場合は、この値を活用し変更するものとする。

受注者は、ICT 施工に要した建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績（延べ使用台数）が確認できる資料を監督職員へ提出するものとする。

なお、稼働実績が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合においては、全施工数量の 25% を「掘削（ICT）[ICT 建機使用割合 100%]」の施工数量として変更するものとする。

第6 受注者希望型における変更積算方法

受注者の希望により ICT 施工を実施した場合は、ICT 施工現場での実際の施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は ICT 建設機械の稼働率を用いて算出するものとする。

掘削（ICT）の変更積算は、ICT 施工の施工数量と通常施工の施工数量を用いるものとする。

（注）変更の積算については、別添「掘削（ICT）における積算」を参照するものとする。

1 変更積算

現場での ICT 施工の実績により、変更するものとする。

（1）ICT 土工にかかる ICT 建設機械稼働率の算出

ICT 建設機械による施工日数（使用台数）を ICT 施工に要した全施工日数（ICT 建設機械と通常建設機械の延べ使用台数）で除した値を ICT 建設機械稼働率とする。

なお、ICT 建設機械稼働率は、小数点第 3 位を切り捨て小数点第 2 位止とする。

（2）変更施工数量の算出

I C T 土工の全施工数量に I C T 建設機械稼働率を乗じた値を I C T 施工（掘削（I C T）[I C T 建機使用割合100%]）の施工数量とし、全施工数量から I C T 施工（掘削（I C T）[I C T 建機使用割合100%]）を引いた値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。

I C T 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるものとする。

なお、I C T 施工は実施しているが、I C T 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、全施工数量の25%を I C T 施工（掘削（I C T）[I C T 建機使用割合100%]）による施工数量として変更設計書に計上するものとする。

2 特記仕様書への条件明示【参考】

特記仕様書に追記する記載例は、以下のとおりとする。

なお、記載例に無いものについては、別途作成するものとする。

第〇〇条 I C T 活用工事の費用について

○. 掘削工の I C T 建設機械による施工は、当面の間、I C T 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は建設機械（I C T 建設機械、通常建設機械）の稼働実績を用いて算出するものとする。

※ I C T 建設機械の施工土量が把握できる場合は、この値を活用し変更するものとする。

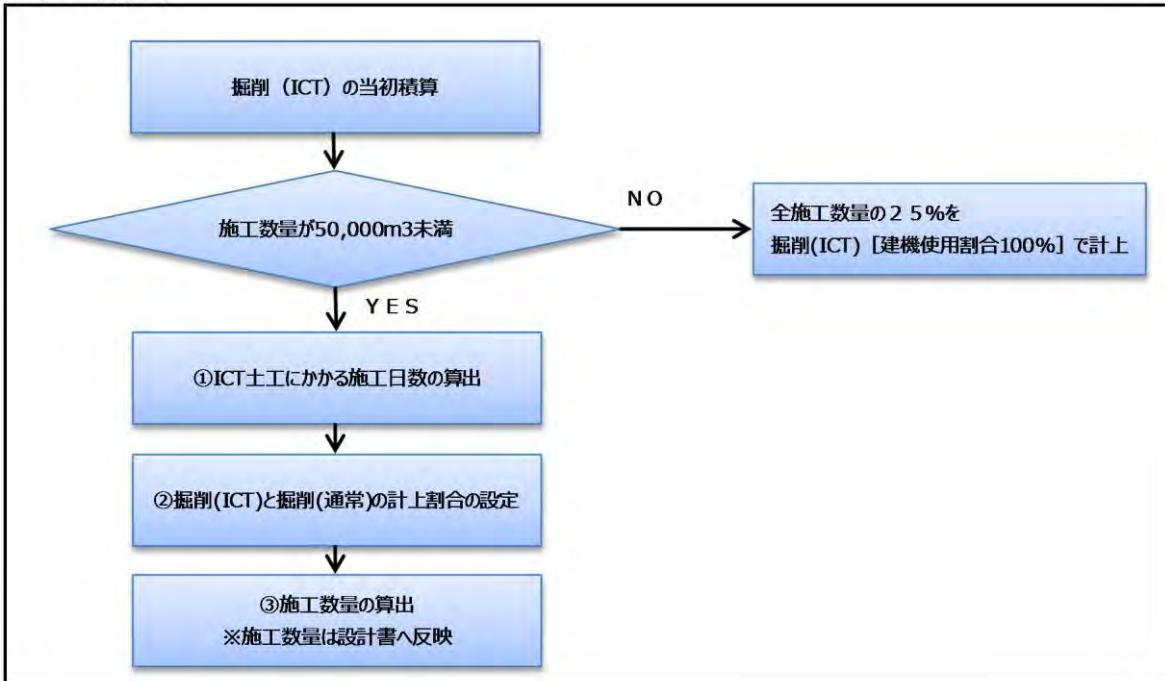
受注者は、I C T 施工に要した建設機械（I C T 建設機械、通常建設機械）の稼働実績（延べ使用台数）が確認できる資料を監督職員へ提出するものとする。

なお、稼働実績が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合においては、全施工数量の25%を「掘削（I C T）[I C T 建機使用割合100%]」の施工数量として変更するものとする。

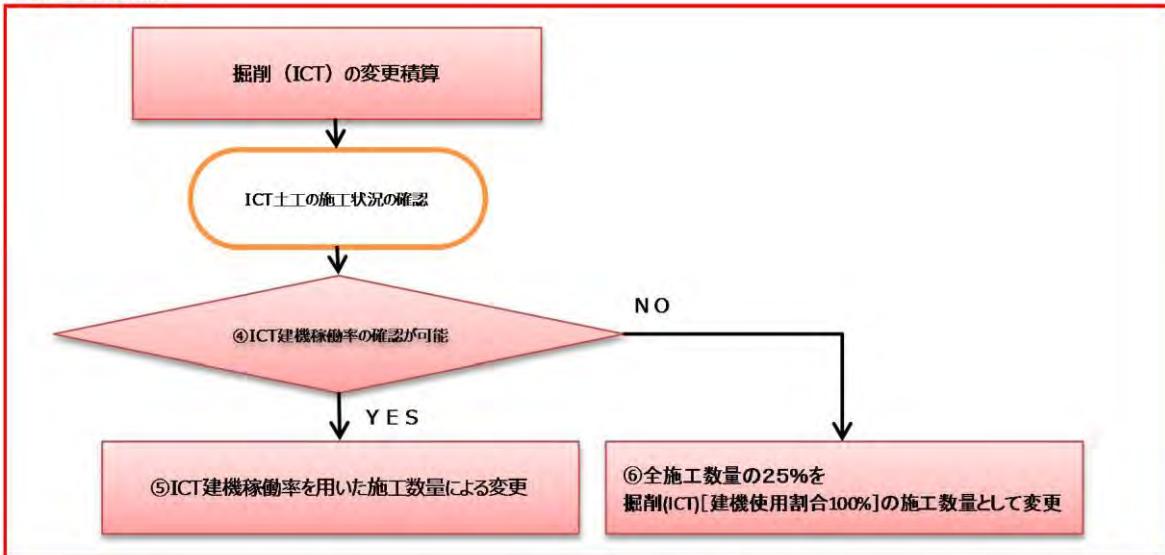
掘削 (ICT) における積算

1 当初積算と変更積算までの流れ

1) 当初積算



2) 変更積算



2 施工箇所が点在する工事の積算について

施工箇所が点在する工事については、森林整備保全事業設計積算要領等の細部取扱いについて（平成11年7月1日付け11-13林野庁指導部長、国有林野部長通知）によるものとする。

注）積算例の当初積算は、発注者指定型のみ対象となり、変更積算は、発注者指定型及び受注者希望型ともに対象となります。

【積算例 1】※施工数量 50,000m³ 未満における掘削（ICT）の積算

I C T 土工の全施工数量を掘削（ICT）〔ICT 建機使用割合 100%〕で計上する事例

（1）当初積算

（積算条件）

- ・施工数量：10,000m³
- ・ICT 標準作業量：350m³/日
- ・施工班数：2班
- ・土質：土砂
- ・施工方法：オープンカット
- ・障害の有無：無し

① ICT 土工にかかる施工日数の算出

$$\cdot 10,000\text{m}^3 \div 350\text{m}^3/\text{日} \div 2 = 14.3 \Rightarrow 15 \text{ 日}$$

②掘削（ICT）と掘削（通常）の計上割合の設定

算出された日数（16日）は、「森林整備保全事業 ICT 活用工事（土工）試行積算要領」第5の1（1）イ表-1 施工数量 50,000m³ 未満における掘削（ICT）から、「施工日数 20 日未満」となり、掘削（ICT）の計上割合は、100%となる。

③施工数量の算出

$$\cdot 10,000\text{m}^3 \times 100\% = 10,000\text{m}^3$$

【設計書への反映】

土工（ICT）の掘削（ICT）〔ICT 建機使用割合 100%〕により、計上する。

設計書の計上（イメージ）

細別	単位	数量
掘削（ICT）〔ICT 建機使用割合100%〕	m ³	10,000

（2）変更積算 ※事例は数量変更が無い場合

④ ICT 建機稼働率の確認

- ・受注者から ICT 建機稼働率が確認できる資料の提出があり、監督職員の確認が取れている場合は、⑤ ICT 建機稼働率を用いた施工数量による変更を行う。
- ・受注者から ICT 建機稼働率が確認できる資料の提出がない等、稼働実績が適正と認められない場合は、⑥全施工数量の25%を掘削（ICT）〔ICT 建機使用割合100%〕の施工数量として変更を行う。

⑤ ICT 建機稼働率を用いた施工数量による変更

⑤-1 全施工数量を ICT 建機により施工した場合

受注者が提出する稼働実績の資料（イメージ）

	2/1 (木)	2/2 (金)	2/3 (土)	2/4 (日)	2/5 (月)	2/6 (火)	2/7 (水)	台数	延べ 使用台数
I C T 建機	1	1	休工	休工	1	1	2	6	6
通常建機	0	0	休工	休工	0	0	0	0	

【I C T 建機稼働率、施工数量の算出】

$$\begin{aligned} \cdot 6 \text{ (I C T 建機)} &\div 6 \text{ (延べ使用台数)} = 1.00 \\ \cdot 10,000 \text{ m}^3 \times 1.00 &= 10,000 \text{ m}^3 \end{aligned}$$

【設計書への反映】

土工 (I C T) の掘削 (I C T) [I C T 建機使用割合 100%] により、計上する。

設計書の計上 (イメージ)

細別	単位	数量
掘削 (I C T) [I C T 建機使用割合100%]	m ³	10,000

⑤-2 施工数量の一部を通常建機により施工した場合

受注者が提出する稼働実績の資料 (イメージ)

	2/1 (木)	2/2 (金)	2/3 (土)	2/4 (日)	2/5 (月)	2/6 (火)	2/7 (水)	台数	延べ 使用台数
I C T 建機	1	1	休工	休工	1	1	2	6	9
通常建機	1	1	休工	休工	1	0	0	3	

【I C T 建機稼働率、施工数量の算出】

$$\begin{aligned} \cdot 6 \text{ (I C T 建機)} &\div 9 \text{ (延べ使用台数)} = 0.666 \Rightarrow 0.66 \\ \cdot 10,000 \text{ m}^3 \times 0.66 &= 6,600 \text{ m}^3 \text{ (I C T 建機)} \\ \cdot 10,000 \text{ m}^3 - 6,600 \text{ m}^3 &= 3,400 \text{ m}^3 \text{ (通常建機)} \end{aligned}$$

【設計書への反映】

土工 (I C T) の掘削 (I C T) [I C T 建機使用割合 100%] と掘削 (通常) により、計上する。

設計書の計上 (イメージ)

細別	単位	数量
掘削 (I C T) [I C T 建機使用割合100%]	m ³	10,000 6,600
掘削 (通常)	m ³	0 3,400

⑥全施工数量の25%を掘削 (I C T) [I C T 建機使用割合 100%] の施工数量として変更

受注者が提出する稼働実績の資料（イメージ）

	2/1 (木)	2/2 (金)	2/3 (土)	2/4 (日)	2/5 (月)	2/6 (火)	2/7 (水)	台数	延べ 使用台数
I C T 建機	1	?	休工	休工	?	1	2	?	?
通常建機	?	1	休工	休工	1	0	0	?	

【I C T 建機稼働率、施工数量の算出】

※稼働実績が適正と認められないため、全施工数量の25%とする。

- $10,000\text{m}^3 \times 25\% = 2,500\text{m}^3$ (I C T 建機)
- $10,000\text{m}^3 - 2,500\text{m}^3 = 7,500\text{m}^3$ (通常建機)

【設計書への反映】

土工（I C T）の掘削（I C T） [I C T 建機使用割合 100%] と掘削（通常）により、計上する。

設計書の計上（イメージ）

細別	単位	数量
掘削（I C T） [I C T 建機使用割合100%]	m^3	10,000 2,500
掘削（通常）	m^3	0 7,500

（3）施工数量が50,000 m^3 以上となった場合の変更積算

施工条件等の変更に伴い、施工数量が50,000 m^3 以上となるものについても、施工数量に応じて変更を行うものとする。

【積算例2】※施工数量 50,000m³ 未満における掘削（ICT）の積算

ICT土工の施工数量を掘削（ICT）〔ICT建機使用割合 100%〕と掘削（通常）に分けて計上する事例

（1）当初積算

（積算条件）

- ・施工数量：10,000m³
- ・ICT標準作業量：350m³/日
- ・施工班数：1班
- ・土質：土砂
- ・施工方法：オープンカット
- ・障害の有無：無し

① ICT 土工にかかる施工日数の算出

$$\cdot 10,000\text{m}^3 \div 350\text{m}^3/\text{日} \div 1 = 28.6 \Rightarrow 29 \text{ 日}$$

②掘削（ICT）と掘削（通常）の計上割合の設定

算出された日数（29日）は、「森林整備保全事業ICT活用工事（土工）試行積算要領」第5の1（1）イ表-1 施工数量 50,000m³ 未満における掘削（ICT）から、「施工日数 20 日以上 60 日未満」となり、掘削（ICT）の計上割合は、50%となる。

③施工数量の算出

$$\begin{aligned} \cdot 10,000\text{m}^3 \times 50\% &= 5,000\text{m}^3 (\text{ICT建機}) \\ \cdot 10,000\text{m}^3 - 5,000\text{m}^3 &= 5,000\text{m}^3 (\text{通常建機}) \end{aligned}$$

【設計書への反映】

土工（ICT）の掘削（ICT）〔ICT建機使用割合 100%〕と掘削（通常）により、計上する。

設計書の計上（イメージ）

細別	単位	数量
掘削（ICT）〔ICT建機使用割合100%〕	m ³	5,000
掘削（通常）	m ³	5,000

（2）変更積算 ※事例は数量変更が無い場合

④ ICT 建機稼働率の確認

- ・受注者から ICT建機稼働率が確認できる資料の提出があり、監督職員の確認が取れている場合は、⑤ICT建機稼働率を用いた施工数量による変更を行う。
- ・受注者から ICT建機稼働率が確認できる資料の提出がない等、稼働実績が適正と認められない場合は、⑥全施工数量の25%を掘削（ICT）〔ICT建機使用割合 100%〕の施工数量として変更を行う。

⑤ I C T 建機稼働率を用いた施工数量による変更

⑤-1 全施工数量を I C T 建機により施工した場合

受注者が提出する稼働実績の資料（イメージ）

	2/1 (木)	2/2 (金)	2/3 (土)	2/4 (日)	2/5 (月)	2/6 (火)	2/7 (水)	台数	延べ 使用台数
I C T 建機	1	1	休工	休工	1	1	2	6	
通常建機	0	0	休工	休工	0	0	0	0	6

【I C T 建機稼働率、施工数量の算出】

- 6 (I C T 建機) ÷ 6 (延べ使用台数) = 1.00
- $10,000 \text{ m}^3 \times 1.00 = 10,000 \text{ m}^3$

【設計書への反映】

土工 (I C T) の掘削 (I C T) [I C T 建機使用割合 100%] により、計上する。

設計書の計上（イメージ）

細別	単位	数量
掘削 (I C T) [I C T 建機使用割合100%]	m^3	5,000 10,000
掘削 (通常)	m^3	5,000 0

⑤-2 施工数量の一部を通常建機により施工した場合

受注者が提出する稼働実績の資料（イメージ）

	2/1 (木)	2/2 (金)	2/3 (土)	2/4 (日)	2/5 (月)	2/6 (火)	2/7 (水)	台数	延べ 使用台数
I C T 建機	1	1	休工	休工	1	1	2	6	
通常建機	1	1	休工	休工	1	0	0	3	9

【I C T 建機稼働率、施工数量の算出】

- 6 (I C T 建機) ÷ 9 (延べ使用台数) = 0.666 ⇒ 0.66
- $10,000 \text{ m}^3 \times 0.66 = 6,600 \text{ m}^3$ (I C T 建機)
- $10,000 \text{ m}^3 - 6,600 \text{ m}^3 = 3,400 \text{ m}^3$ (通常建機)

【設計書への反映】

土工 (I C T) の掘削 (I C T) [I C T 建機使用割合 100%] と掘削 (通常) により、計上する。

設計書の計上（イメージ）

細別	単位	数量
掘削（ICT） [ICT建機使用割合100%]	m ³	5,000 6,600
掘削（通常）	m ³	5,000 3,400

⑥全施工数量の25%を掘削（ICT）[ICT建機使用割合 100%]の施工数量として変更
受注者が提出する稼働実績の資料（イメージ）

	2/1 (木)	2/2 (金)	2/3 (土)	2/4 (日)	2/5 (月)	2/6 (火)	2/7 (水)	台数	延べ 使用台数
ICT建機	1	?	休工	休工	?	1	2	?	?
通常建機	?	1	休工	休工	1	0	0	?	

【ICT建機稼働率、施工数量の算出】

※稼働実績が適正と認められないため、全施工数量の 25%とする。

$$\cdot 10,000 \text{m}^3 \times 25\% = 2,500 \text{m}^3 (\text{ICT建機})$$

$$\cdot 10,000 \text{m}^3 - 2,500 \text{m}^3 = 7,500 \text{m}^3 (\text{通常建機})$$

【設計書への反映】

土工（ICT）の掘削（ICT）[ICT建機使用割合 100%]と掘削（通常）により、
計上する。

設計書の計上（イメージ）

細別	単位	数量
掘削（ICT） [ICT建機使用割合100%]	m ³	5,000 2,500
掘削 [通常]	m ³	5,000 7,500

（3）施工数量が50,000m³以上となった場合の変更積算

施工条件等の変更に伴い、施工数量が50,000m³以上となるものについても、施工数量に応じて変更を行うものとする。

【積算例3】※施工数量 50,000m³ 未満における掘削（ICT）の積算

ICT土工の全施工数量の25%を掘削（ICT） [ICT建機使用割合 100%] の施工数量として計上する事例

（1）当初積算

（積算条件）

- 施工数量：22,000m³
- ICT標準作業量：350m³/日
- 施工班数：1班
- 土質：土砂
- 施工方法：オープンカット
- 障害の有無：無し

① ICT土工にかかる施工日数の算出

$$\cdot 22,000\text{m}^3 \div 350\text{m}^3/\text{日} \div 1 = 62.9 \Rightarrow 63 \text{ 日}$$

②掘削（ICT）と掘削（通常）の計上割合の設定

算出した日数（63日）は、「森林整備保全事業ICT活用工事（土工）試行積算要領」第5の1（1）イ表-1 施工数量 50,000m³ 未満における掘削（ICT）から、「施工日数 60日以上」となり、掘削（ICT）の計上割合は、25%となる。

③施工数量の算出

$$\begin{aligned} &\cdot 22,000\text{m}^3 \times 25\% = 5,500\text{m}^3 (\text{ICT建機}) \\ &\cdot 22,000\text{m}^3 - 5,500\text{m}^3 = 16,500\text{m}^3 (\text{通常建機}) \end{aligned}$$

【設計書への反映】

土工（ICT）の掘削（ICT） [ICT建機使用割合 100%] と掘削（通常）により、計上する。

設計書の計上（イメージ）

細別	単位	数量
掘削（ICT） [ICT建機使用割合100%]	m ³	5,500
掘削（通常）	m ³	16,500

（2）変更積算 ※事例は数量変更が無い場合

④ ICT建機稼働率の確認

- 受注者からICT建機稼働率が確認できる資料の提出があり、監督職員の確認が取れている場合は、⑤ICT建機稼働率を用いた施工数量による変更を行う。
- 受注者からICT建機稼働率が確認できる資料の提出がない等、稼働実績が適正と認め

られない場合は、⑥全施工数量の25%を掘削（ICT）[ICT建機使用割合100%]の施工数量として変更を行う。

⑤ ICT建機稼働率を用いた施工数量による変更

⑤-1 全施工数量をICT建機により施工した場合

受注者が提出する稼働実績の資料（イメージ）

	2/1 (木)	2/2 (金)	2/3 (土)	2/4 (日)	2/5 (月)	2/6 (火)	2/7 (水)	台数	延べ 使用台数
ICT建機	1	1	休工	休工	1	1	2	6	6
通常建機	0	0	休工	休工	0	0	0	0	

【ICT建機稼働率、施工数量の算出】

$$\cdot 6 \text{ (ICT建機)} \div 6 \text{ (延べ使用台数)} = 1.00$$

$$\cdot 22,000 \text{ m}^3 \times 1.00 = 22,000 \text{ m}^3$$

【設計書への反映】

土工（ICT）の掘削（ICT）[ICT建機使用割合 100%]により、計上する。

設計書の計上（イメージ）

細別	単位	数量
掘削（ICT）[ICT建機使用割合100%]	m ³	5,500 22,000
掘削（通常）	m ³	16,500 0

⑤-2 施工数量の一部を通常建機により施工した場合

受注者が提出する稼働実績の資料（イメージ）

	2/1 (木)	2/2 (金)	2/3 (土)	2/4 (日)	2/5 (月)	2/6 (火)	2/7 (水)	台数	延べ 使用台数
ICT建機	1	1	休工	休工	1	1	2	6	9
通常建機	1	1	休工	休工	1	0	0	3	

【ICT建機稼働率、施工数量の算出】

$$\cdot 6 \text{ (ICT建機)} \div 9 \text{ (延べ使用台数)} = 0.666 \Rightarrow 0.66$$

$$\cdot 22,000 \text{ m}^3 \times 0.66 = 14,520 \text{ m}^3 \text{ (ICT建機)}$$

$$\cdot 22,000 \text{ m}^3 - 14,520 \text{ m}^3 = 7,480 \text{ m}^3 \text{ (通常建機)}$$

【設計書への反映】

土工（ICT）の掘削（ICT）[ICT建機使用割合 100%]と掘削（通常）により、計上する。

設計書の計上（イメージ）

細別	単位	数量
掘削（ICT） [ICT建機使用割合100%]	m ³	5,500 14,520
掘削（通常）	m ³	16,500 7,480

⑥全施工数量の25%を掘削（ICT）[ICT建機使用割合 100%]の施工数量として変更
受注者が提出する稼働実績の資料（イメージ）

	2/1 (木)	2/2 (金)	2/3 (土)	2/4 (日)	2/5 (月)	2/6 (火)	2/7 (水)	台数	延べ 使用台数
ICT建機	1	?	休工	休工	?	1	2	?	?
通常建機	?	1	休工	休工	1	0	0	?	

【ICT建機稼働率、施工数量の算出】

※稼働実績が適正と認められないため、全施工数量の25%とする。

- $22,000\text{m}^3 \times 25\% = 5,500\text{m}^3$ (ICT建機)
- $22,000\text{m}^3 - 5,500\text{m}^3 = 16,500\text{m}^3$ (通常建機)

【設計書への反映】

土工（ICT）の掘削（ICT）[ICT建機使用割合 100%]と掘削（通常）により、
計上する。

設計書の計上（イメージ）

細別	単位	数量
掘削（ICT）[ICT建機使用割合100%]	m ³	5,500
掘削（通常）	m ³	16,500

（3）施工数量が50,000m³以上となった場合の変更積算

施工条件等の変更に伴い、施工数量が50,000m³以上となるものについても、施工数量に応じて変更を行うものとする。

【積算例 4】※掘削（ICT）の施工数量 50,000m³ 以上における積算

ICT 土工の全施工数量の25%を掘削（ICT） [ICT 建機使用割合 100%] の施工数量として計上する事例

（1）当初積算

（積算条件）

- 施工数量：50,000m³
- ICT 標準作業量：350m³/日
- 施工班数：3班
- 土質：土砂
- 施工方法：オープンカット
- 障害の有無：無し

①施工数量の算出

- $50,000\text{m}^3 \times 25\% = 12,500\text{m}^3$ (ICT 建機)
- $50,000\text{m}^3 - 12,500\text{m}^3 = 37,500\text{m}^3$ (通常建機)

【設計書への反映】

土工（ICT）の掘削（ICT） [ICT 建機使用割合 100%] と掘削（通常）により、計上する。

設計書の計上（イメージ）

細別	単位	数量
掘削（ICT） [ICT 建機使用割合100%]	m ³	12,500
掘削（通常）	m ³	37,500

（2）変更積算 ※事例は数量変更が無い場合

④ ICT 建機稼働率の確認

- 受注者から ICT 建機稼働率が確認できる資料の提出があり、監督職員の確認が取れている場合は、⑤ ICT 建機稼働率を用いた施工数量による変更を行う。
- 受注者から ICT 建機稼働率が確認できる資料の提出がない等、稼働実績が適正と認められない場合は、⑥全施工数量の25%を掘削（ICT） [ICT 建機使用割合100%] の施工数量として変更を行う。

⑤ ICT 建機稼働率を用いた施工数量による変更

⑤-1 全施工数量を ICT 建機により施工した場合

受注者が提出する稼働実績の資料（イメージ）

	2/1 (木)	2/2 (金)	2/3 (土)	2/4 (日)	2/5 (月)	2/6 (火)	2/7 (水)	台数	延べ 使用台数
I C T 建機	1	1	休工	休工	1	1	2	6	
通常建機	0	0	休工	休工	0	0	0	0	6

【I C T 建機稼働率、施工数量の算出】

- 6 (I C T 建機) ÷ 6 (延べ使用台数) = 1.00
- $50,000 \text{m}^3 \times 1.00 = 50,000 \text{m}^3$

【設計書への反映】

土工 (I C T) の掘削 (I C T) [I C T 建機使用割合 100%] により、計上する。

設計書の計上（イメージ）

細別	単位	数量
掘削 (I C T) [I C T 建機使用割合100%]	m ³	12,500 50,000
掘削 (通常)	m ³	37,500 0

⑤-2 施工数量の一部を通常建機により施工した場合

受注者が提出する稼働実績の資料（イメージ）

	2/1 (木)	2/2 (金)	2/3 (土)	2/4 (日)	2/5 (月)	2/6 (火)	2/7 (水)	台数	延べ 使用台数
I C T 建機	1	1	休工	休工	1	1	2	6	
通常建機	1	1	休工	休工	1	0	0	3	9

【I C T 建機稼働率、施工数量の算出】

- 6 (I C T 建機) ÷ 9 (延べ使用台数) = 0.666 ⇒ 0.66
- $50,000 \text{m}^3 \times 0.66 = 33,000 \text{m}^3$ (I C T 建機)
- $50,000 \text{m}^3 - 33,000 \text{m}^3 = 17,000 \text{m}^3$ (通常建機)

【設計書への反映】

土工 (I C T) の掘削 (I C T) [I C T 建機使用割合 100%] と掘削 (通常) により、計上する。

設計書の計上（イメージ）

細別	単位	数量
掘削 (I C T) [I C T 建機使用割合100%]	m ³	12,500 33,000
掘削 [通常]	m ³	37,500 17,000

⑥全施工数量の25%を掘削（ICT）[ICT建機使用割合 100%] の施工数量として変更
受注者が提出する稼働実績の資料（イメージ）

	2/1 (木)	2/2 (金)	2/3 (土)	2/4 (日)	2/5 (月)	2/6 (火)	2/7 (水)	台数	延べ 使用台数
ICT建機	1	?	休工	休工	?	1	2	?	?
通常建機	?	1	休工	休工	1	0	0	?	?

【ICT建機稼働率、施工数量の算出】

※稼働実績が適正と認められないため、全施工数量の 25%とする。

- $50,000\text{m}^3 \times 25\% = 12,500\text{m}^3$ (ICT建機)
- $50,000\text{m}^3 - 12,500\text{m}^3 = 37,500\text{m}^3$ (通常建機)

【設計書への反映】

土工（ICT）の掘削（ICT）[ICT建機使用割合 100%] と掘削（通常）により、計上する。

設計書の計上（イメージ）

細別	単位	数量
掘削（ICT） [ICT建機使用割合100%]	m^3	12,500
掘削（通常）	m^3	37,500

（3）施工数量が 50,000 m^3 未満となった場合の変更積算

施工条件等の変更に伴い、施工数量が 50,000 m^3 未満となるものについても、施工数量に応じて変更を行うものとする。